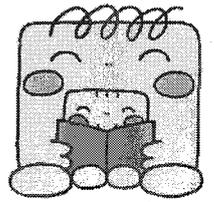


えなとだより



2020年
がつごう
6月号



発行：恵那市中央図書館

No.22

『アマビエ』って、しってる？

そのすがたを ^え絵にすると、^{びょうき}はやっている病気がおさまるんだって。

アマビエまんが
ウイルス
バイバイ

① むかし、むかし。
*ひごの国で、海が光っていた。

② 朝、いってみると、
ふしぎなものにであった。

わたしは、
アマビエ

③ アマビエは言った。
病気が
はやったら、
わたしをかいて

④ かいた絵を、かわら版にして、
みんなにくばった。

新型コロナウイルスがはやっている今も、
アマビエはおうえんしてくれている。

元気になあれ！

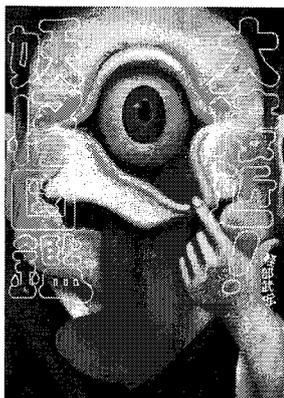
*ひごの国...今の熊本県のこと。 *かわら版...新聞やおたよりのこと。

このおはなしは、図書館にある本をもとにつくりました。

アマビエが出てくる本

児童書

絵本



『大接近！
妖怪園金鑑』
軽部 武宏 / 作
あかね書房



『絵巻えほん
妖怪の森』
水木しげる / 著
こぐま社



こんげつ 今月のおすすめ



えほん
絵本

『しばふって、いいな！』
レオーネ・アデルソン/文
ロジャー・デウボアサン/絵
こみやゆう/訳 瑞雲舎



目の前の草原にはなんにもない
ように見える。ところが、草のあい
だには、いろんな虫たちがいっ
ぱい! 楽しいリズムの文章と鮮や
かな色合いの絵で、緑の中への
冒険にいざなう絵本。

じどうしょ
児童書

『しまふくろうの森』
箭川賢行/写真・文
あかね書房



北海道に生息する世界最大級の
ふくろう、「しまふくろう」は、
理想的な生息環境が少なくなり、
人間の手によって保護され
ている。絶滅が危惧されるしま
ふくろうの生命力あふれる姿
を、写真と文章で紹介する。



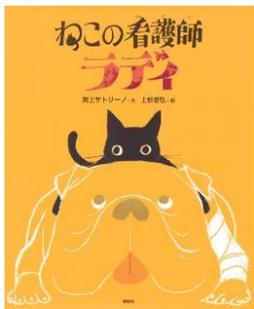
びょうき
病気・ウイルスとたたかう本をあつめました。

びょういん
病院ではたらく人たちをおうえんしよう!



えほん
絵本

『ねこの看護師 ラディ』
瀬上サトリーノ/文
上杉忠弘/絵 講談社



重病から回復した子ねこのラ
ディは、ある日車にはねられて
震えている犬にそっと寄り添
い、抱きしめました。その日か
ら、ラディは毎日診察室に行く
ようになり…。動物をケアする
奇跡のねこの実話を元にした
感動的で美しい絵本。

じどうしょ
児童書

『ママはお医者さん』
あさのあつこ/作
本田亮/絵 講談社



美生のママは村にひとつしかない
診療所のお医者さん。患者さん
に愛されているママが大好き
だけど、毎日忙しくて…。
おはなしを楽しみながら、あこ
がれのお仕事がよくわかる本。
職業への理解がさらに深まる
「まめちしき」つき。

じどうしょ
児童書

『のぞいてみよう
ウイルス・細菌・真菌図鑑 1』
北元憲利/著 ミネルヴァ書房



ウイルス・細菌・真菌などの
微生物がよくわかるシリーズ。
1は、ヒトとウイルスの関わり、
ウイルスのつくりや生態、ヒト
に感染する主なウイルスなど、
ウイルスの秘密を解説する。

じどうしょ
児童書

『感染症とたたかった
科学者たち』

岡田晴恵/著 岩崎書店



感染症に立ち向かい、医学を
発展させてきた科学者たち。
彼らの多くは、何気ないできご
とに“ひらめき”を感じ、すばら
しい発見に導いた。
ジェンナー、北里柴三郎など7名
の科学者が、一瞬のひらめきを
どうつかんだのか紹介。

ほん
本のは、図書館が開いてから聞いてね!